

研究概要：産官学連携事業 <モンパルの紹介>

—熊本県・熊本大学大学院（生命科学研究部）・HONDAとの共同研究—

平成24年度に、熊本大学大学院（生命科学研究部）及びHONDAとモンパルを使用して、**ご利用者のAPDL（IADL）を高め、そのQOLを向上させる研究**を実施しました。

<テーマ>

要介護高齢者がパーソナルモビリティ「モンパル」を活用してQOL向上を目指すサポートモデル

<研究者>

熊本県・熊本大学大学院（生命科学研究部）・HONDA・「しん」

<内容>

1. モンパルとは？

電動カート（図）…歩行者と同じ扱いであるため、免許証は要らない。



ボディカラー：プライマリーレッド

2. 実施状況

ご希望が挙がった「しん」のご利用者を、曜日ごとにピックアップして、**スタッフと共に外出する機会**を作る。



経験された方々のほとんどで満足度が高く、その満足度が本来の目的であるAPDL（IADL）の拡大に対する自らの意欲の向上に繋がって、外出への楽しみを高めている。

◎モンパルを活用することで、これまで諦めかけていた「自らの力での外出」が可能となり、QOLの向上が引き出せている。

～実施例：ニーズをもとにした個別機能訓練から屋外訓練（モンパル活動）への繋がり～

(1)脊髄損傷による対麻痺の方（当時）

ニーズ

「ご主人の送迎による通院がモンパルで自らできると嬉しい」



個別機能訓練により、体幹バランスが安定し、長時間の座位保持ができるようになった。



長時間の座位を活用した ADL・IADL の拡大を図った。

(2)脳卒中右片麻痺の方（当時）

ニーズ

「ご主人のために調理をしたいが、できないならせめてモンパルで買い物をしたい」



個別機能訓練により、歩行持久力は向上した。しかし、買い物をする形までは繋がらない。



歩行と絡めた IADL の拡大を図った。

(3)頸椎症性脊髄症による歩行障害の方（当時）

ニーズ

「通常 2 本の杖を用いているが、ちょっと距離がある場所は無理なので、モンパルで身動きを取りたい」



個別機能訓練により、歩行持久力は向上している。遠距離は車も運転するが、その中間的な距離の対応が難しい。



中間的な距離への対応を可能とする IADL の拡大を図った。